



《共通事項》

◆定期的なかん水について

晴天が5～6日(砂を含む土は4日)続いたら20～30mm程度のかん水を行なう。
10a全体に1mmのかん水をするには水1,000ℓが必要です。樹冠下に集中して行う。

《あんず》

◆灰星病対策について

発生が心配されますので、前回情報を参照に、第7回収穫直前防除並びに補助防除を徹底する。

◆新潟大実系・信州大実系・ハーコット等への補助散布について

- 散布時期:第7回散布から10日後 実際散布日記入 月 日
- 調 合 量:水100ℓ当り ※混用順に記載。 ※収穫前日とは、24時間前です。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
パレード 15フロアブル	33mℓ	灰色かび病・灰星病・黒星病	前日

- 散 布 量 : 10a 当り ⇒ 400ℓ以上

4. 留意事項

- ①前回散布10日以降に収穫が見込まれる園では散布する。
- ②パレード15フロアブルに代えて、㊞カナメフロアブル4,000倍(水100ℓ当り25mℓ・収穫前日まで)を使用してもよい。
- ③降雨が多く灰星病の発生が心配される場合は、もう一度オンリーワンフロアブル2,000倍(水100ℓ当り50mℓ・年3回まで・収穫前日まで)で特別散布する。
ただし、農薬飛散に十分注意する。

◆生食用あんず(ハーコット等)収穫出荷講習会について

開催日	曜	開催時間	集合場所	担当
6月24日	火	午後14:00	松代農業総合センター	伊藤

※目揃い会以前に収穫できるものは収穫出荷をお願いいたします。

《ブルー・すもも》

◆スモモヒメシンクイの防除対策について《重要》

1. 薬剤防除:定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
2. 耕種的防除:園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
3. 処分方法
 - ①被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
 - ②土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
 - ③厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
 - ④放任園や自家用で、防除しないブルー・すもも等発生源を伐採してもらう。

4. 被害果の特徴

- ①アメをだす。 ②果面に地図を描く。 ③果面が黄色や紫色に変色。 ④落果している。

※なお、市場に出荷した生産物に被害果が混入し、出荷者が確定できるクレームがあった場合は、例年と同様にその出荷者のクレームとなった数量の精算をゼロとすることになっております。
荷造りに際しても厳重に選果して出荷をお願いします。

◆灰星病の防除対策について

被害果を見かけ次第（降雨の前に）除去し、園外へ持ち出すが土中に埋め、被害果を触った手で他の果実に触れないようにする。

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期:6月22日(日)～26日(木) 実際散布日記入 月 日

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
(展着剤 まくぴか)	10ml	—	—
オーシャインフロアブル	33ml	灰星病	前日
(ダニゲッターフロアブル)	50ml	ハダニ類	前日
イカズチWDG	66g	シンクイムシ類	前日

4. 留意事項

- ①ハダニ類の発生が心配される場合は、ダニゲッターフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50ml・収穫前日まで・年間1回まで)を加用散布する。

◆第10回薬剤散布について

1. 散布時期:7月2日(水)～6日(日) 実際散布日記入 月 日

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
(展着剤 まくぴか)	10ml	—	—
サムコルフロアブル	40ml	シンクイムシ類	3日
ベルクートフロアブル	50ml	灰星病	3日

※収穫中又は収穫が近い品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。

◆第9・10回薬剤散布の共通留意事項について

3. 散布量10a当り ⇒ 400ℓ

4. 留意事項

- ①収穫中の品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。
 ②収穫直前の品種は、定期薬剤散布に代えて別記の収穫前薬剤散布を行う。
 ③この時期は農薬による汚れや果粉溶脱を軽減するため展着剤を使用しないが、薬液をしっかりと付着させたい場合は、展着剤を「まくぴか」10,000 倍(水 100ℓ当り 10ml)を使用する。ただし、果粉溶脱等は増加する。
 ④果実の汚れを防ぐため、圧を上げなるべく細霧（ノズル噴口は1.0mm）を主体にしてすぐに乾く時間帯で散布する。
 ⑤アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。

◆収穫前薬剤散布について ※収穫直前の品種に行う。

1. 散布時期:収穫開始2日前 実際散布日記入 月 日

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
オンリーワンフロアブル	50ml	灰星病	前日
(㊟スカウトフロアブル)	50ml	シンクイムシ類	前日

3. 散 布 量:10a当り⇒350ℓ

4. 留意事項

- ①「収穫前日まで」となっている農薬は、収穫24時間前までに散布が終了する事を意味する。
 ②シンクイムシ類の発生が心配される園は、スカウトフロアブル 2,000 倍を加用散布する。スカウトフロアブルに代えて、ディアナWDG5,000 倍(水 100ℓ当り 20g／収穫前日)を使用してもよい。

《なし》

◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期:6月21日(土)～25日(水) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	50g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日
ペンコゼブ水和剤	200g	黒斑病・輪紋病	30日

3. 散 布 量:10a当り⇒棚栽培450ℓ／立木栽培500ℓ以上
4. 留意事項
- ①モスピラン顆粒水溶剤に代えて、バリアード顆粒水和剤2,000倍(水100ℓ当り50g)を使用してもよい。

◆第8回薬剤散布について

1. 散布時期:7月1日(火)～7月5日(土) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
ベルコートフロアブル	66mℓ	黒斑病・輪紋病	14日
Ⓜダイアジノン水和剤34	100g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	14日

3. 散 布 量:10a当り⇒棚栽培450ℓ／立木栽培500ℓ以上
4. 留意事項
- ①有袋栽培の場合は散布を除いてもよい。
- ②ルレクチェは、薬害が発生するため、ベルコートフロアブルに代えて、オキシラン水和剤500倍(水100ℓ当り200g)を使用する。
- ③ダイアジノン水和剤34代えて、スミチオン水和剤40の1,000倍(水100ℓ当り100g・収穫前有袋14日前・無袋21日前まで)を使用してもよい。

◆新梢管理について

日本なしは、新梢伸長が停止した枝から順に棚面に対して45度くらいに誘引する。特に棚下から発生する新梢は、棚面まで伸びてきた際に小張り線をくぐらせておく。

側枝の基部近くが徒長しやすくなるので、発生した新梢は除去するか4～5cm(展葉4枚)で摘心する。また、伸長が停止した新梢は、斜めに誘引し側枝候補とする。

側枝中間部分では、上側から発生した新梢を除去する。

側枝先端は、養分が先端に行くように立ち上げる。

短果枝から発生する新梢は、赤い芽のうちに欠くか、葉4枚を残して摘心する。

《オウトウ》

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期:収穫直後 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
コ ロ マ イ ト 乳 剤	100ml	ハダニ類	7 日前
㊤ダイアジノン水和剤 34	100g	カイガラムシ類	14 日前
オーソサイド水和剤80	125g	褐色せん孔病	3 日前

3. 散 布 量:10a当り⇒500ℓ
4. 留意事項
 - ①ハダニの発生が増加する時期である。農薬がよくかかるように夏季剪定後に行う。
 - ②オーソサイド水和剤は、もも・野菜などに飛散しないように注意する(残留農薬基準が厳しい)
 - ③ハダニの発生を抑えるために、収穫後できるだけ早く雨よけ資材を除去する。
 - ④ダイアジノン水和剤に代えて、サイアノックス水和剤 1,000 倍(水 100ℓ当り 100ml・年 2 回まで)を使用してもよい。

《うめ》

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期:収穫後 (7月初旬) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
トップジン M 水 和 剤	66g	胴枯病・黒星病	21 日前
㊤ダイアジノン水和剤	100g	アブラムシ類	21 日前

3. 散 布 量:10a当り⇒500ℓ
4. 留意事項
 - ①この散布によって胴枯病と早期落葉を軽減することができる。
 - ②枝幹部へも散布を行う。
 - ③アブラムシ類が多発している園は、㊤ダイアジノン水和剤に代えて㊤モスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍(水 100ℓ当り 50g)を使用する。但し、収穫中や収穫間際の品種には絶対にかけない。
 - ④この時期に中太枝を整理し傷口保護のために、トップジンMペーストを塗布する。

◆新梢管理について

若木等徒長枝の旺盛な園は7月にかけて徒長枝・不要な枝を2～3回に分け整理する。花芽分化期であるので結果枝に陽を当てるが日焼けに注意し徐々に整理する。

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武(篠ノ井西部): 080-1202-0260/外谷(篠ノ井東部): 080-8048-6602

※篠ノ井西部は、佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更): 090-7179-9866/伊藤(松代): 080-2239-6816

松橋(川中島): 090-4816-6297/根津(更北・情報担当) 080-1203-8576

寺澤(若穂・情報担当): 080-1188-5229/吉澤(全域・本所): 090-2543-0365

栽培に関するの電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務) 松坂(篠ノ井西部) 080-1188-4131

※流通センター稼働期になるため、対応できない場合があります。

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所): 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課: 299-3311